

食品安全情報（微生物） No.13 / 2026（2026.06.24）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

(<https://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/index.html>)

目次

【[世界保健機関（WHO）](#)】

1. 世界的なコレラワクチンの供給量が十分な量に達したことで予防接種が再開：3年以上ぶりの予防接種キャンペーンがモザンビークで開始されバングラデシュとコンゴ民主共和国でも実施予定

【[米国疾病予防管理センター（US CDC）](#)】

1. ソフトリコッタチーズ（Requesón）に関連して複数州にわたり発生しているリステリア（*Listeria monocytogenes*）感染アウトブレイク（2026年6月15日、9日付更新情報、4日付初発情報）
2. 調理済みパスタ製品に関連して複数州にわたり発生したリステリア（*Listeria monocytogenes*）感染アウトブレイク（2026年2月12日付最終更新）

【[欧州委員会健康・食品安全総局（EC DG-SANTE）](#)】

1. 食品および飼料に関する早期警告システム（RASFF：Rapid Alert System for Food and Feed）

【[アイルランド食品安全局（FSAI）](#)】

1. アイルランド食品安全局（FSAI）が食品安全における誤情報への対応に関する公開会議を開催

【[ドイツ連邦リスクアセスメント研究所（BfR）](#)】

1. リスクコミュニケーション：情報提供対象者から逆算して考える
-

【国際機関】

- 世界保健機関 (WHO: World Health Organization)

<https://www.who.int/en/>

世界的なコレラワクチンの供給量が十分な量に達したことで予防接種が再開：3年以上ぶりの予防接種キャンペーンがモザンビークで開始されバングラデシュとコンゴ民主共和国でも実施予定

Preventive cholera vaccination resumes as global supply reaches critical milestone: First preventive campaign in over three years launches in Mozambique, with others planned in Bangladesh and the Democratic Republic of the Congo

4 February 2026

<https://www.who.int/news/item/04-02-2026-preventive-cholera-vaccination-resumes-as-global-supply-reaches-critical-milestone>

「ワクチンと予防接種のための世界同盟 (GAVI : Global Alliance for Vaccine and Immunisation)」、国際連合児童基金 (UNICEF)、世界保健機関 (WHO) は、世界的なコレラワクチンの供給量が 3 年以上ぶりに増加し、命を救う予防接種キャンペーンを再開できる水準に達したことを発表した。

モザンビークは、世界的なコレラ患者急増による経口コレラワクチン (OCV) の需要増と在庫不足により 2022 年から中断されていた予防接種を再開する最初の国である。

予防接種キャンペーンは、コレラの流行が続く中、70 万人以上に影響を与え多くの避難民を出した洪水の余波の中で開始される。洪水により医療システムが混乱し、水道システムが損傷したため、コレラなどの水系感染症のリスクがさらに高まった。

予防接種キャンペーンのために初回は 2,000 万回分のコレラワクチンが配分される予定である。このうち 360 万回分がモザンビーク、610 万回分が深刻なアウトブレイクに見舞われているコンゴ民主共和国、および 1,030 万回分がバングラデシュに届けられる予定である。

国際機関、製造業者および協力機関による持続的な取り組みの結果、OCV の年間世界供給量は、2022 年の 3,500 万回分から 2025 年には 7,000 万回分近くへと倍増した。ワクチンの費用は GAVI が負担し、調達および各国への配送は UNICEF が行っている。

上記 3 カ国は、予防接種キャンペーン用コレラワクチンが体系的かつ公平性・透明性をもって確実に配分されるように、50 以上の組織が連携する「コレラ対策のための国際委員会 (GTFCC : Global Task Force for Cholera Control)」が定めた配分基準 (以下 Web ペー

ジ参照) にもとづき選定された。

<https://www.gtfcc.org/wp-content/uploads/2025/11/gtfcc-preventative-campaign-oral-cholera-vaccine-supply-allocation-framework.pdf>

予防接種の再開は、関連機関、製造業者およびその他の協力機関による持続的な取り組みと緊密な連携（以下 Web ページ参照）により実現した。これらの取り組みと連携は、(1) アウトブレイクへの対応、(2) 生産能力の拡大、(3) 配分の効率化、という継続的で高い需要を満たし、限られた供給量のワクチンをリスクと公衆衛生への影響が最も大きい地域に確実に届けることを目的としたものである。

<https://www.gavi.org/news/media-room/global-vaccine-alliance-outlines-path-sustainable-cholera-vaccine-supply>

OCV は安全かつ効果的であり、1 歳以上の人に推奨される。OCV を 1 回接種すると、少なくとも 6 カ月間の短期的な予防効果が得られ、流行の抑制に役立つ。一方、2 回接種すると、より長期間（3 年間）の感染予防効果が得られる。

世界的なワクチン供給は着実に改善してはいるが、アウトブレイク対応としては依然として 1 回接種が標準的戦略となり（以下 Web ページ参照）、2 回接種は個々の状況に応じて検討される見通しである。

<https://www.who.int/news/item/19-10-2022-shortage-of-cholera-vaccines-leads-to-temporary-suspension-of-two-dose-strategy--as-cases-rise-worldwide>

コレラ：継続的な感染拡大

コレラは汚染された食品や水を介して感染し、重度の下痢と脱水症状を引き起こす。迅速に治療されない場合は死に至る可能性がある。コレラは、主に紛争や貧困の影響を受けている地域など、安全な水および衛生設備が整備されていない地域で発生する。

2025 年に 33 カ国から WHO に報告されたコレラまたは急性水様性下痢症の患者は 60 万人以上、および死亡者数は約 7,600 人であった。コレラは依然として報告漏れがあるため、これらの数値は過小評価されたものである。2021 年以降、世界のコレラ患者数は年々増加し、2025 年に減少が確認された。しかし同期間中、コレラによる死亡者数は増加を続けていた。

ワクチン接種は、コレラの予防および対策における 1 つの側面に過ぎない。安全な水・衛生設備・衛生インフラへの長期的な投資が依然として、疾病サーベイランス、迅速な治療および地域社会との連携と並び、アウトブレイクの発生と拡大を防止して長期的に死亡者数を低減させるために不可欠である。

【各国政府機関】

- 米国疾病予防管理センター (US CDC: Centers for Disease Control and Prevention)
<https://www.cdc.gov/>

1. ソフトリコッタチーズ (Requesón) に関連して複数州にわたり発生しているリステリア (*Listeria monocytogenes*) 感染アウトブレイク (2026年6月15日、9日付更新情報、4日付初発情報)

Listeria Outbreak Linked to Requesón/Soft Ricotta Cheese

June 15, 9 & 4, 2026

<https://www.cdc.gov/listeria/outbreaks/soft-cheese-06-26/index.html>

<https://www.cdc.gov/listeria/outbreaks/soft-cheese-06-26/investigation.html>

(Investigation Update)

<https://www.cdc.gov/listeria/outbreaks/soft-cheese-06-26/locations.html> (Locations)

<https://www.cdc.gov/listeria/outbreaks/soft-cheese-06-26/timeline.html> (Timeline)

米国疾病予防管理センター (US CDC) は、ソフトリコッタチーズ (Requesón) に関連して複数州にわたり発生しているリステリア (*Listeria monocytogenes*) 感染アウトブレイクに関する情報を発表した。

2026年6月15日付更新情報

疫学・追跡調査および検査機関での検査によるデータは、Clover Hill Dairy 社が供給した Requesón チーズがリステリア (*Listeria monocytogenes*) に汚染され、本アウトブレイクの感染源となっていることを示している。汚染源の特定、および本件に関連しているチーズが他にもあるかどうかの確認のため、調査が進められている。

○ 検査機関での検査および追跡調査によるデータ

本アウトブレイクの公衆衛生調査では、アウトブレイク患者を特定するために PulseNet (食品由来疾患サーベイランスのための分子生物学的サブタイピングネットワーク) のシステムを利用している。米国疾病予防管理センター (US CDC) の PulseNet 部門は、食品由来疾患の原因菌の DNA フィンガープリントの国内データベースを管理している。原因菌の分離株には全ゲノムシーケンシング (WGS) 法により DNA フィンガープリンティングが行われる。WGS 解析により、本アウトブレイクの患者由来検体から分離されたリステリア株が遺伝学的に相互に近縁であることが示された。この結果は、本アウトブレイクの患者が同じ食品により感染したことを示唆している。

米国食品医薬品局（US FDA）および関連各州の当局は当該製品および環境由来の検体を採取し検査を行った。Requesón チーズ由来 6 検体および環境由来 1 検体からリステリアが検出された。WGS 解析の結果、当該チーズ由来リステリア株が患者由来リステリア株と同一であることが示された。

○ 公衆衛生上の措置

Clover Hill Dairy 社はすべてのチーズ製品の回収に同意した。CDC は、回収対象のチーズを喫食・販売・提供しないよう注意喚起している。

2026 年 6 月 9 日付更新情報

疫学・追跡調査および検査機関での検査によるデータは、Clover Hill Dairy 社が供給した一部の Requesón チーズがリステリア (*Listeria monocytogenes*) に汚染され、本アウトブレイクの感染源となっていることを示している。汚染源の特定、および本件に関連しているチーズが他にもあるかどうかの確認のため、調査が進められている。

○ 疫学データ

2026 年 6 月 4 日付初発情報以降、新たな患者 1 人が報告された。

2026 年 6 月 9 日時点でリステリアアウトブレイク株感染患者が 3 州から計 9 人報告されている (図 1)。患者由来検体は 2023 年 3 月 6 日～2026 年 5 月 10 日に採取された (図 2)。情報が得られた患者 9 人のうち 8 人が入院し、メリーランド州から死亡者が 1 人報告されている。

図 1：リステリア (*Listeria monocytogenes*) 感染アウトブレイクの居住州別患者数 (2026年6月9日時点の計9人)

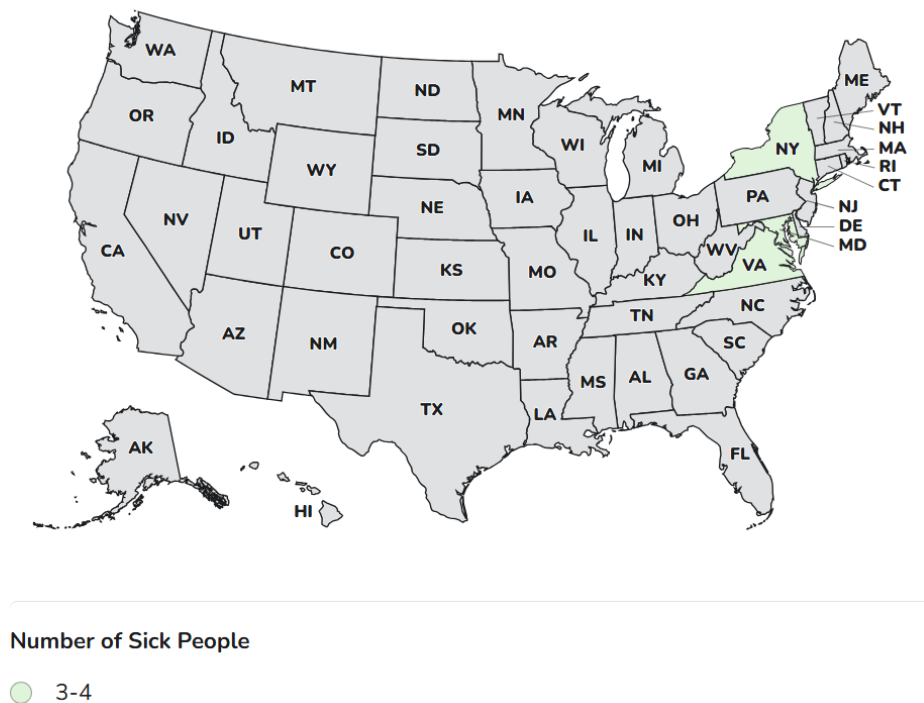
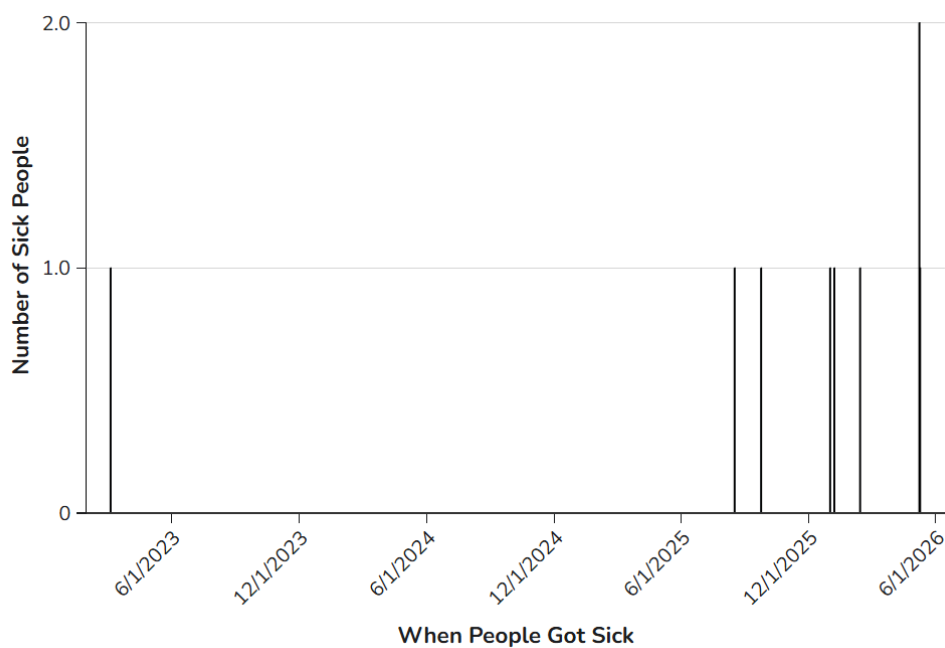


図 2：リステリア (*Listeria monocytogenes*) 感染アウトブレイクの発症日別患者数 (2026年6月9日時点の計9人)



公衆衛生当局は、患者の年齢・人種・民族・その他の人口統計学的特徴、および患者が発症前 1 カ月間に喫食した食品など、患者に関する様々な情報を多数収集している。これらの情報は、アウトブレイク調査で感染源を特定するための手掛かりとなる。

本アウトブレイクの患者について現時点で得られている人口統計学的情報は以下の通りである（n は当該情報が得られた患者の数）。

年齢 (n=9)	年齢範囲：16～81 歳 年齢中央値：55 歳
性別 (n=9)	67%：女性 33%：男性
人種 (n=6)	83%：白人 17%：その他
民族 (n=8)	88%：ヒスパニック系 12%：非ヒスパニック系

各州・地域の公衆衛生当局は、患者が発症前 1 カ月間に喫食した食品に関する聞き取り調査を行っている。聞き取りが実施された患者 8 人のうち 6 人が何らかのチーズの喫食を報告した。患者 2 人は Clover Hill Dairy 社製の Requesón チーズの喫食を報告した。それ以外の患者は様々な種類のチーズへの曝露を報告した。これらのチーズが Clover Hill Dairy 社に関連しているかどうか確認するため調査は継続されている。

公衆衛生調査において、本アウトブレイクに関連している製品が他にもあるかどうか確認するため、患者が発症前に喫食した食品に関する情報の収集が続けられている。

○ 検査機関での検査および追跡調査によるデータ

本アウトブレイクの公衆衛生調査では、アウトブレイク患者を特定するために PulseNet（食品由来疾患サーベイランスのための分子生物学的サブタイピングネットワーク）のシステムを利用している。米国疾病予防管理センター（US CDC）の PulseNet 部門は、食品由来疾患の原因菌の DNA フィンガープリントの国内データベースを管理している。原因菌の分離株には全ゲノムシーケンシング（WGS）法により DNA フィンガープリンティングが行われる。WGS 解析により、本アウトブレイクの患者由来検体から分離されたリステリア株が遺伝学的に相互に近縁であることが示された。この結果は、本アウトブレイクの患者が同じ食品により感染したことを示唆している。

ニューヨーク州農業市場局（NYS AGM：New York State Department of Agriculture and Markets）は、患者がチーズを購入した小売店舗で検体を採取した。当該小売業者により再包装された Requesón チーズ由来 1 検体が *L. monocytogenes* 陽性であった。WGS 解析により、この再包装されたチーズから分離されたリステリア株が、患者由来株と同一であることが確認された。

NYS AGM はまた、小売店にチーズを供給した業者から、Clover Hill Dairy 社が供給した未開封 18 ポンド容器入り Requesón チーズ 1 検体を採取した。この検体が *L. monocytogenes* 陽性を示した。WGS 解析の結果、このチーズから分離されたリステリア株がアウトブレイク株と同じ株であることが示された。

2026 年 6 月 9 日現在、米国食品医薬品局 (US FDA) による追跡調査が進められている。

○ 公衆衛生上の措置

Clover Hill Dairy 社および Nelson & Isa Lacteos 社はソフトリコッタチーズ (Requesón) の回収を発表した (以下の各 Web ページ参照)。CDC は、回収対象のチーズを喫食・販売・提供しないよう注意喚起している。

<https://www.fda.gov/safety/recalls-market-withdrawals-safety-alerts/clover-hill-dairy-recalls-soft-ricottarequeson-cheese-due-possible-health-risk> (Clover Hill Dairy 社)

<https://www.fda.gov/safety/recalls-market-withdrawals-safety-alerts/nelson-isa-lacteos-llc-recalls-requeson-cheese-due-possible-health-risk> (Nelson & Isa Lacteos 社)

2026 年 6 月 4 日付初発情報

米国疾病予防管理センター (US CDC)、複数州の公衆衛生・食品規制当局および米国食品医薬品局 (US FDA) は、複数州にわたり発生しているリステリア (*Listeria monocytogenes*) 感染アウトブレイクを調査するため、様々なデータを収集している。

疫学・追跡調査および検査機関での検査によるデータは、一部のソフトリコッタチーズ (Requesón) が *L. monocytogenes* に汚染され、本アウトブレイクの感染源となっていることを示している。汚染源の特定、および本件に関連しているチーズが他にもあるかどうかの確認のため、調査が進められている。

○ 疫学データ

2026 年 6 月 4 日時点で、リステリアアウトブレイク株感染患者が 3 州から計 8 人報告されている (図 1)。患者由来検体は 2023 年 3 月 6 日～2026 年 5 月 9 日に採取された (図 2)。情報が得られた患者 8 人のうち 7 人が入院し、メリーランド州から死亡者が 1 人報告されている。

図 1：リステリア (*Listeria monocytogenes*) 感染アウトブレイクの居住州別患者数 (2026年6月4日時点の計8人)

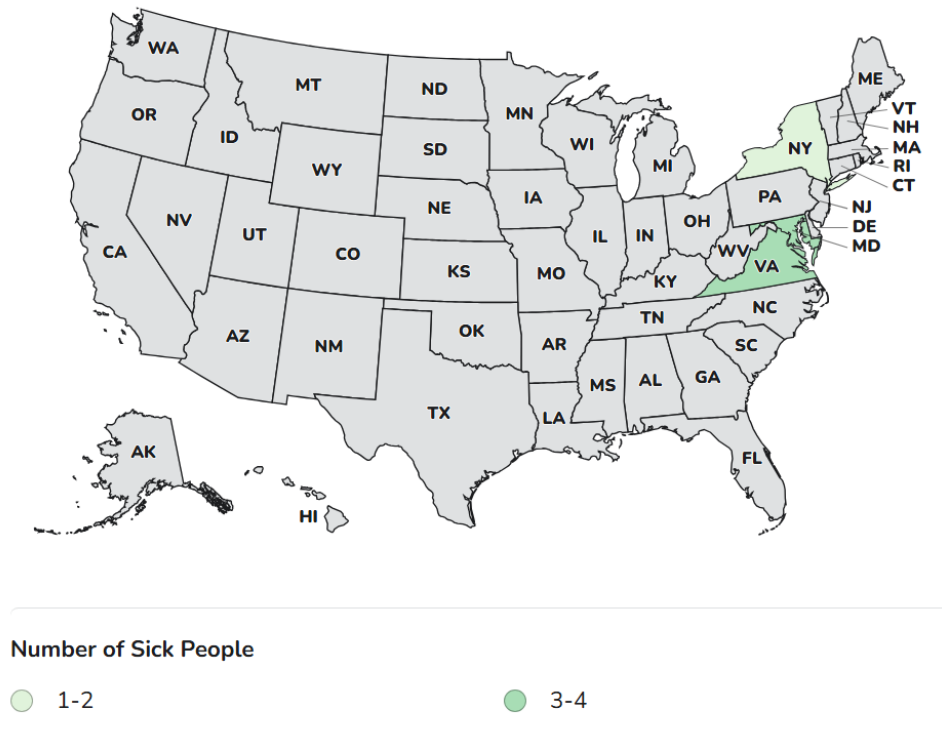
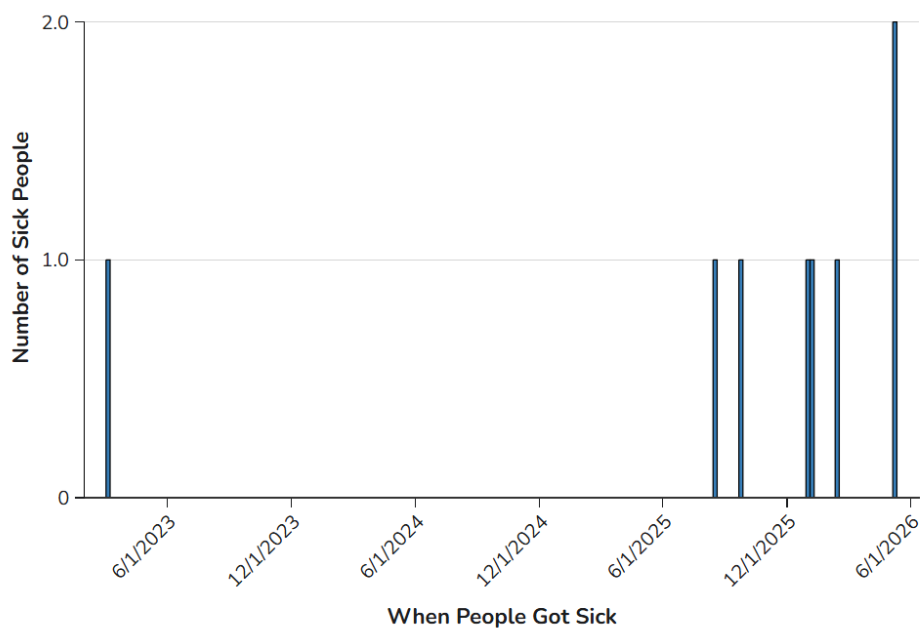


図 2：リステリア (*Listeria monocytogenes*) 感染アウトブレイクの発症日別患者数 (2026年6月4日時点の計8人)



公衆衛生当局は、患者の年齢・人種・民族・その他の人口統計学的特徴、および患者が発症前 1 カ月間に喫食した食品など、患者に関する様々な情報を多数収集している。これらの情報は、アウトブレイク調査で感染源を特定するための手掛かりとなる。

本アウトブレイクの患者について現時点で得られている人口統計学的情報は以下の通りである（n は当該情報が得られた患者の数）。

年齢 (n=8)	年齢範囲：16～81 歳 年齢中央値：57 歳
性別 (n=8)	63%：女性 37%：男性
人種 (n=6)	83%：白人 17%：その他
民族 (n=8)	88%：ヒスパニック系 12%：非ヒスパニック系

各州・地域の公衆衛生当局は、患者が発症前 1 カ月間に喫食した食品に関する聞き取り調査を行っている。聞き取りが実施された患者 7 人のうち 5 人が何らかのチーズの喫食を報告した。患者 2 人は Clover Hill Dairy 社製の Requesón チーズの喫食を報告した。それ以外の患者は様々な種類のチーズへの曝露を報告した。これらのチーズが Clover Hill Dairy 社に関連しているかどうか確認するため調査は継続されている。

公衆衛生調査において、本アウトブレイクに関連している製品が他にもあるかどうか確認するため、患者が発症前に喫食した食品に関する情報の収集が続けられている。

○ 検査機関での検査および追跡調査によるデータ

本アウトブレイクの公衆衛生調査では、アウトブレイク患者を特定するために PulseNet（食品由来疾患サーベイランスのための分子生物学的サブタイピングネットワーク）のシステムを利用している。CDC の PulseNet 部門は、食品由来疾患の原因菌の DNA フィンガープリントの国内データベースを管理している。原因菌の分離株には全ゲノムシーケンシング (WGS) 法により DNA フィンガープリンティングが行われる。WGS 解析により、本アウトブレイクの患者由来検体から分離されたリステリア株が遺伝学的に相互に近縁であることが示された。この結果は、本アウトブレイクの患者が同じ食品により感染したことを示唆している。

ニューヨーク州農業市場局 (NYS AGM : New York State Department of Agriculture and Markets) は、患者がチーズを購入した小売店舗で検体を採取した。当該小売業者により再包装された Requesón チーズ由来 1 検体が *L. monocytogenes* 陽性であった。WGS 解析により、当該チーズから分離されたリステリア株が、患者由来株と同一であることが確認

された。

NYS AGM はまた、小売店にチーズを供給した業者から、Clover Hill Dairy 社が供給した未開封 18 ポンド容器入り Requesón チーズ 1 検体を採取した。この検体が *L. monocytogenes* 陽性を示した。当該チーズから分離されたリステリア株がアウトブレイク株と同一であるかどうか特定するため WGS 解析が進められている。

メリーランド州保健局 (MDH) は、公衆衛生上のリスクがあるとして Clover Hill Dairy 社の営業許可を一時停止し、同社と協力してさらなる評価を実施している。

2026 年 6 月 4 日現在、FDA による追跡調査が進められている。

○ 公衆衛生上の措置

2026 年 6 月 3 日、Clover Hill Dairy 社はソフトリコッタチーズ (Requesón) の自主回収を開始した (以下 Web ページ参照)。CDC は、回収対象のチーズを喫食・販売・提供しないよう注意喚起している。

<https://www.fda.gov/safety/recalls-market-withdrawals-safety-alerts/clover-hill-dairy-recalls-soft-ricottarequeson-cheese-due-possible-health-risk>

2. 調理済みパスタ製品に関連して複数州にわたり発生したリステリア (*Listeria monocytogenes*) 感染アウトブレイク (2026 年 2 月 12 日付最終更新)

Listeria Outbreak Linked to Prepared Pasta Meals

Feb. 12, 2026

<https://www.cdc.gov/listeria/outbreaks/chicken-fettuccine-alfredo-06-25/index.html>

<https://www.cdc.gov/listeria/outbreaks/chicken-fettuccine-alfredo-06-25/investigation.html> (Investigation Update)

<https://www.cdc.gov/listeria/outbreaks/chicken-fettuccine-alfredo-06-25/locations.html>
(Locations)

<https://www.cdc.gov/listeria/outbreaks/chicken-fettuccine-alfredo-06-25/timeline.html>
(Timeline)

米国疾病予防管理センター (US CDC)、複数州の公衆衛生・食品規制当局、米国食品医薬品局 (US FDA) および米国農務省食品安全検査局 (USDA FSIS) は、複数州にわたり発生したリステリア (*Listeria monocytogenes*) 感染アウトブレイクを調査した。

疫学・追跡調査および検査機関での検査から得られたデータは、パスタを使用した複数の調理済み食品が *L. monocytogenes* に汚染され、本アウトブレイクの感染源となったことを示した。

○ 疫学データ

2026年2月12日時点で、本アウトブレイクの患者は19州から報告された計28人であった(図1)。患者由来検体は2024年8月1日~2025年11月16日に採取された(図2)。情報が得られた患者28人のうち27人が入院し、死亡者は計7人(アリゾナ、ハワイ、イリノイ、ミシガン、オレゴン、テキサス、ユタの各州から1人ずつ)が報告された。妊娠関連患者1人が流産した。

図1: リステリア (*Listeria monocytogenes*) 感染アウトブレイクの居住州別患者数(2026年2月12日時点の計28人)

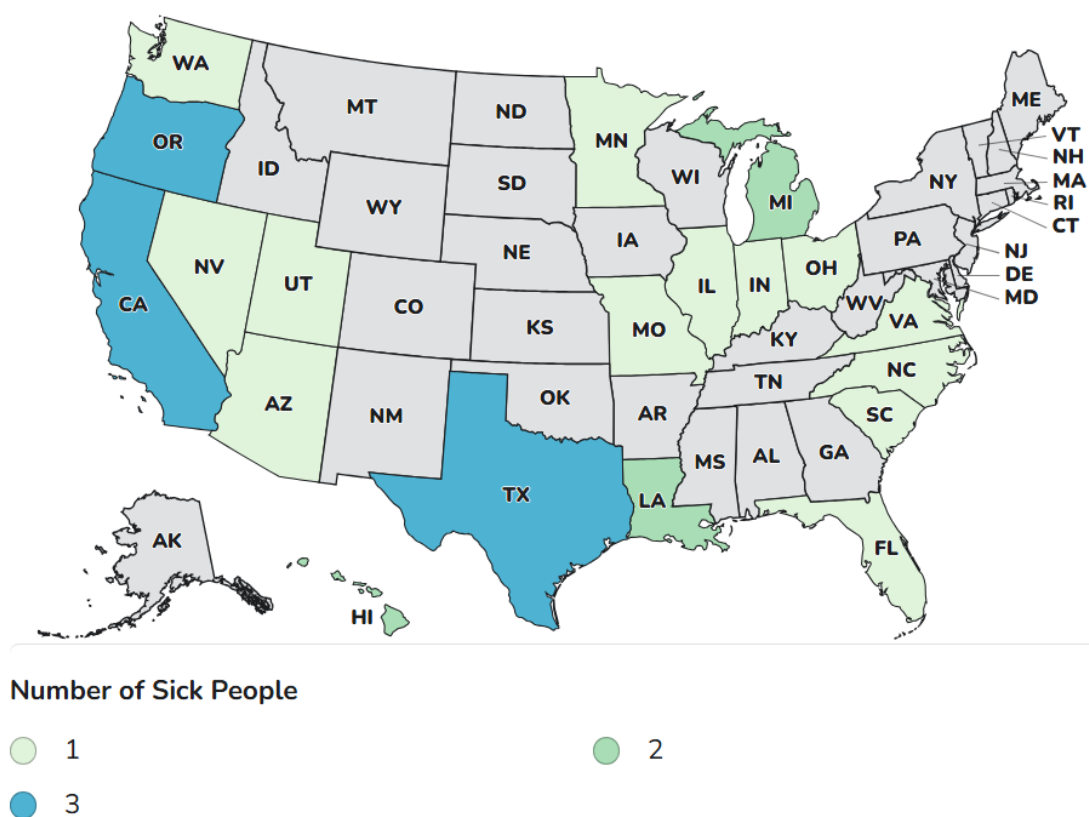
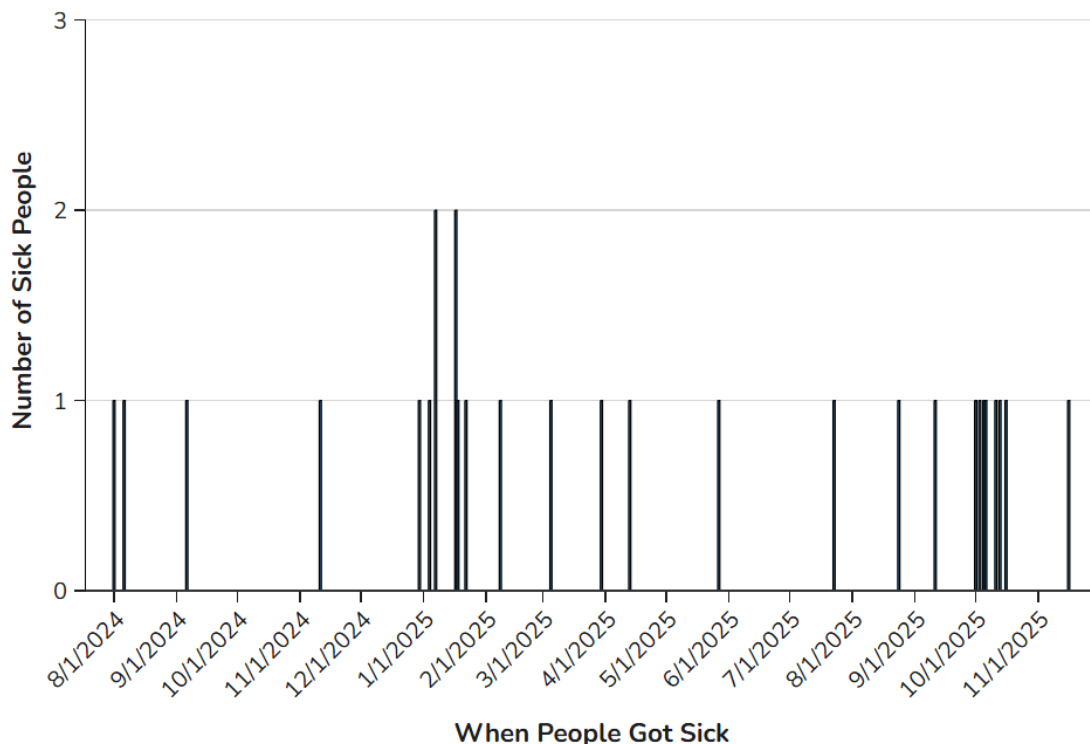


図 2：リステリア (*Listeria monocytogenes*) 感染アウトブレイクの発症日別患者数 (2026 年 2 月 12 日時点の計 28 人)



調査を行った。聞き取りが実施された患者 13 人のうち 7 人（54%）が調理済み料理の喫食を報告し、このうち 4 人（57%）が「鶏肉入りアルフレッドソースのフェットチーネ」の喫食を具体的に報告した。患者は、小売りチェーンの Walmart および Kroger の店舗の冷蔵食品売り場でこれらの製品を購入していた。また、患者 2 人はその他の店から購入したパスタ入りサラダの喫食も報告した。

○ 検査機関での検査

本アウトブレイクの公衆衛生調査では、アウトブレイク患者を特定するために PulseNet（食品由来疾患サーベイランスのための分子生物学的サブタイピングネットワーク）のシステムを利用した。CDC の PulseNet 部門は、食品由来疾患の原因菌の DNA フィンガープリントの国内データベースを管理している。原因菌の分離株には全ゲノムシーケンシング (WGS) 法により DNA フィンガープリンティングが行われる。WGS 解析により、本アウトブレイクの患者由来検体から分離されたサルモネラ株が遺伝学的に相互に近縁であることが示された。この結果は、本アウトブレイクの患者が同じ食品により感染したことを示唆していた。

○ 公衆衛生上の措置

本アウトブレイクは終息しており、回収対象製品はもはや販売されていない。

(食品安全情報 (微生物) No.23 (2025.11.12)、No.21/2025 (2025.10.15)、No.13/2025 (2025.06.25) US CDC 記事参照)

● 欧州委員会健康・食品安全総局 (EC DG-SANTE: Directorate-General for Health and Food Safety)

https://commission.europa.eu/about/departments-and-executive-agencies/health-and-food-safety_en

食品および飼料に関する早期警告システム (RASFF : Rapid Alert System for Food and Feed)

https://food.ec.europa.eu/food-safety/rasff_en

RASFF Portal Database

<https://webgate.ec.europa.eu/rasff-window/screen/search>

Notifications list

<https://webgate.ec.europa.eu/rasff-window/screen/list>

2026年6月2～9日の主な通知内容

警報通知 (Alert Notification)

米国産（オランダ経由）アーモンドのサルモネラ属菌、ベルギー産スモークサーモン切り落としのリステリア、スペイン産有機粉末スイートパプリカのサルモネラ属菌など。

注意喚起情報 (Information Notification for Attention)

リトアニア産ブロイラー脚肉（骨・皮なし）のサルモネラ（*S. Infantis*、1/5 検体陽性）、ポーランド産鶏もも肉のサルモネラ属菌、ポーランド産ブロイラー脚肉（骨・皮なし）のサルモネラ（*S. Infantis*、1/5 検体陽性および 5/5 検体陽性）、ポーランド産の生鮮鶏むね肉カツレツのサルモネラ（C2 群）、エストニア産牛肉の志賀毒素産生性大腸菌（*stx2*）、ポーランド産ブロイラー手羽中肉のサルモネラ（*S. Infantis*、2/5 検体陽性）、ポーランド産鶏脚肉（骨なし・皮付き）のサルモネラ（*S. Enteritidis*）、ポーランド産鶏首肉のサルモネラ（*S. Infantis*、1/5 検体陽性）、ブラジル産冷凍加熱済み鶏肉製品のリステリア（*L. monocytogenes*）、ポーランド産鶏ドラムスティック肉（関節なし）のサルモネラ（*S. Infantis*、4/5 検体陽性）、リトアニア産の生鮮鶏脚肉（マリネ液漬け）のサルモネラ（*S. Newport*、3/5 検体陽性）、*S. Infantis*（1/5 検体陽性）、リトアニア産鶏肉製品（マリネ液漬け）のサルモネラ（*S. Infantis*、2/5 検体陽性）、ポーランド産の生鮮七面鳥むねひき肉のサルモネラ（*S. Agona*（4/5 検体陽性）、*S. Newport*（1/5 検体陽性））、リトアニア産鶏ドラムスティック肉（マリネ液漬け）のサルモネラ（*S. Infantis*、1/5 検体陽性）、ポーランド産の生鮮鶏手羽中肉のサルモネラ（*S. Newport*、5/5 検体陽性）、オランダ産エビのリステリア（*L. monocytogenes*）、セルビア産複合飼料のサルモネラ属菌、リトアニア産鶏肉製品のサルモネラ（*S. Infantis*、1/5 検体陽性）、アイルランド産チーズのリステリア（*L. monocytogenes*）、ポーランド産鶏手羽中肉のサルモネラ（*S. Infantis*、5/5 検体陽性）、インド産乾燥エビ（魚用飼料）のサルモネラ属菌など。

フォローアップ喚起情報 (Information Notification for follow-up)

ポーランド産ケバブ用鶏肉のサルモネラ属菌、原産国不明のチェストベリー（ウマ用飼料）のサルモネラ（*S. Newport*）、モーリタニア産魚粉のサルモネラ属菌と腸内細菌科菌群、オーストリア産ハーブティーのセレウス菌など。

通関拒否通知 (Border Rejection Notification)

ブラジル産家禽肉製品のサルモネラ属菌（*S. Minnesota* など）、ナイジェリア産ゴマ種子のサルモネラ属菌など。

● アイルランド食品安全局（FSAI: Food Safety Authority of Ireland）

<https://www.fsai.ie/>

アイルランド食品安全局（FSAI）が食品安全における誤情報への対応に関する公開会議を開催

Navigating Misinformation in Food Safety

05 March 2026

<https://www.fsai.ie/news-and-alerts/latest-news/navigating-misinformation-in-food-safety>

アイルランド食品安全局（FSAI）の食品安全諮問委員会（Food Safety Consultative Council）は、影響力が増加しつつある誤情報が食品安全に与える影響について検討する公開会議を2026年3月5日に開催した。この会議のテーマは「Navigating Misinformation in Food Safety（食品安全における誤情報への対応）」であり、誤情報の拡散経路、現実世界における影響、および誤情報への効果的な対応に必要とされるアプローチについて検討するため、主要な専門家が集結した。

Convention Centre Dublin（CCD）で開催されたこのイベントには250人以上が参加登録し、FSAI、医師、ユニバーシティー・カレッジ・ダブリン（UCD）およびIrish Cancer Societyの代表者らが演者として登壇した。ジャーナリストで企業家のMark Little氏が基調講演を行った。

作家でジャーナリストのSuzanne Campbell氏が議長を務めたこのイベントでは、特にデジタル環境において誤情報の拡散に寄与する心理的・行動的要因に関しても考察が深められた。ディスカッションでは誤解を招く情報や不正確な情報が消費者の信頼、リスク認識および公衆衛生に与える影響について考察され、また食品安全に関する情報伝達を強化するための実践的なアプローチについて検討された。

FSAIのGreg Dempsey長官は、デジタルプラットフォームが重要な相互関与の機会を提供する一方で、重大な課題も抱えていることを強調した。

- ドイツ連邦リスクアセスメント研究所 (BfR: Bundesinstitut für Risikobewertung)

<https://www.bfr.bund.de/>

リスクコミュニケーション：情報提供対象者から逆算して考える

Risk Communication: Thinking From The End

29/04/2026

<https://www.bfr.bund.de/en/press-release/risk-communication-thinking-from-the-end/>

インターネット上には、健康に関する話題や、根拠の不確かなリスクおよび実際のリスクに関する情報が溢れている。特に扇情的な動画やソーシャルメディアの投稿は、瞬く間に何百万人もの人々に広まる可能性がある。この状況は、健康に関する話題について科学的事実にもとづいた信頼できる情報を提供しようとする当局やメディアにとって、特に大きな課題となっている。コミュニケーション科学者の **Eva Baumann** 教授は、ドイツ連邦リスクアセスメント研究所 (BfR) の科学ポッドキャスト「**Risiko**」において「どれほど優れたリスク情報であっても、誰も見つけられず理解することができなければ結局は無価値である」と説明している。**Baumann** 教授は、確実に情報を届けるためには、実際に誰に情報を届ける必要があるかを決定し、そこから逆算する戦略的なアプローチをとることを推奨しており「コミュニケーションの観点から、情報提供対象者の現状に合わせてどこで接点を持つ必要があるかを自問しなければならない」と語っている。

食品微生物情報

連絡先：安全情報部第二室